

平成25年2月1日発行

熊川宿

鯖街道

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



熊川宿空き家再生フォーラム(平成24年11月25日)

熊川宿空き家再生フォーラム

今年度、熊川宿が取り組んでいる空き家を活かした移住推進事業の一環で、尾道からNPO法人「尾道空き家再生プロジェクト」代表の豊田雅子氏や、立命館大学の高村学人先生はじめ高村ゼミの学生さんをお迎えし、(社)近畿建設協会のご協力をいただき、今回のフォーラムが開催されました。

はじめに河合健一会長の挨拶があり、森下裕町長、田辺長生副町長、松岡喜一議員から祝辞をいただきました。

第一部の講演では、豊田雅子氏が「尾道の空き家再生の取り組み」をテーマに事例を交えて講演されました。

続いて、熊川宿の空き家対策調査について、立命館大学政策科学部の高村学人准教授による報告がありました。

第二部では、「空き家を地域資源にしてまちを元気にするには」をテーマに、豊田雅子氏をはじめ、結婚を機に熊川に住まわれた方や次世代を担う方を語り手に、高村学人先生の聞き手で語り合いが行われました。

(3ページに詳細記事)

目次

- 熊川宿空き家再生フォーラム……1
- 寄稿文・事業報告……2
- 事業報告(空き家再生フォーラム)……3
- 熊川いっぶく時代村……4
- 寄稿文・話題・活動報告……5
- 活動報告・お知らせ……6

熊川宿での調査活動から

立命館大学 政策科学部 准教授 高村 学 人

このように研究に打ち込めるのは、学生の成長にとって大きな糧になり、熊川の方々に改めて感謝したい。

年齢差があるからか、学生達の着想は、自分のものとはやや異なるものとなる。合宿での聞き取り調査で、学生達は、熊川の若い世代の方々（「仕事が多忙ゆえにま

熊川宿で空き家調査を行うことをお願いにあがってからちょうど二年が経過した。この間、ゼミでの合宿調査の受け入れ、各種調査の実施で熊川の方々には多大なご協力を頂いてきた。

芳しい成果をあげるに至っていないが、熊川の方々から直接お話を聞かせて頂ける機会が多いこともあり、学生達は、懸命に研究に取り組んでいる。発表準備のための話し合いは、スカイプとインターネットを使って深夜まで続くことも多いようだ。



熊川宿空き家再生フォーラム

より積極的な移住者の受け入れ、観光店舗による地域活性化、自治組織の運営方法の改革など、大胆な提案を学生達は行ってくる。このような提案が地元の意向とずれるのではという心配を自分は持つてしまいが、学生の熱意を損ねるわけにもいかず、内容については学生達に委ねている。

自分は、出身が法学であるから、どうしても問題解決においても固いアプローチに関心が向かってしまう。

ところで、この正月休みに、山崎亮さんの「コミュニティ・デザイン」を読んだ。現在、飛ぶ鳥を

熊川宿の空き家を活かした移住推進事業

落とす勢いで活躍中の方の本である。山崎さんも過疎地の空き家問題に取り組んでおられるが、各地でも洗練されたワークショップを行い、地域の人々を結びつけ新たなまちづくりを担っていく組織づくりに成功されている。

人と人のつながりを新たにデザインしていくという発想は、自分には乏しかったものであり、勉強になった。

また家財を残したまままでの空き家の賃貸活用では、山崎さんは、

落とす勢いで活躍中の方の本である。山崎さんも過疎地の空き家問題に取り組んでおられるが、各地でも洗練されたワークショップを行い、地域の人々を結びつけ新たなまちづくりを担っていく組織づくりに成功されている。

人と人のつながりを新たにデザインしていくという発想は、自分には乏しかったものであり、勉強になった。

また家財を残したまままでの空き家の賃貸活用では、山崎さんは、

奈良県橿原市
今井町伝建地区へ研修
(7月15日)

研修では、NPO法人今井まちなみ再生ネットワークの上田琢也理事長から今井町の空き家対策について、活動内容や空き家活用の事例をお聞きしました。

空き家対策ワークショップ
(9月6日)

漁師さんから鮮やかな漁師旗を譲ってもらい、それを支えにかぶせることで間仕切りとする「空き家キット」を開発・命名し、成功を収めていた。賃貸借契約のひな形を作ることからアプローチしようとしていた自分が反省させられた。

しかし、こういった柔軟な発想は、学生も得意かもしれない。自分の弱点を学生達に上手く補ってもらいながら、今後も進めていければと考えている。

立命館大学高村ゼミの学生さんをはじめ、まちづくり委員、熊川女性会の会、町関係者などが集まり、空き家の活用や移住推進について、アイデアや意見を出し合いました。4つのグループがそれぞれの課題を持っていろんなアイデアが出ました。学生さんがまとめて下さり、グループの代表者が発表しました。

続いて、猛暑の中、実際に今井町伝建地区内を見学しました。

熊川宿空き家再生フォーラム

「空き家を活かしてまちを元気にしよう！」

と き…平成24年11月25日(日)午後1時、
と ころ…熊川児童館

主 催…熊川区・若狭熊川宿まちづくり特別委員会
後 援…若狭町・若狭町教育委員会
協 賛…社団法人近畿建設協会

第一部の講演では、NPO法人
尾道空き家再生プロジェクト代表
の豊田雅子氏が講演されました。



「尾道には500軒もの
空き家があるが、地
域の共有財産として

何とかならないかという思いで団
体を立ち上げ、数々の再生活動を行
ってきた。辛いいろんなジャン
ルの方々がボランティア精神で手
伝ってくれる。熊川ももっと情報
発信して、住みたいと思えるまち
をキープする」とよい「などと尾道
の事例を交えて講演されました。

続いて、熊川宿の空き家対策調
査について立命館大学の高村学人
准教授による報告がありました。



高村先生は、「昨
年度は、空き家バン
ク、移住者アンケー
ト、仏壇問題の三つ

のグループで調査を行い、今年度
は、今井町訪問、ワークショップ、
空き家近隣のアンケートを行った。

熊川の空き家
率は27%で、

留守宅が多く、

建物は古いが

生活環境が整

っていて使い

やすい。その

結果は学生たちが論文としてま
めている」と報告されました。

第二部の語り合いでは、豊田雅
子氏をはじめ、若手住民の代表を
語り手に、高村学人先生が聞き手
になって語り合われました。

①プロフィール②熊川の感想
③空き家で利用してみたいこと
④出来そうなこと・将来の展望
小林美花氏



①小浜市出身、平成
2年から熊川に住
む、前熊川女性の
会会長

②平成14年まで熊川番所跡に居住
③若い人たちが取組み、気持ちに向
上できるとよい。ヨガ教室など
④簡単なことから始め、気持ちがあ
らゆるよう努力したい。

榎鼻裕人氏



①小浜市出身、平成
13年から熊川に住
む、平成24年時代
村事業部長

②同居は経済的、子どもの環境に
もよい。

③射的ゲームなど空き家を活かし
たいイベントが出来ないか。

④児童を預かる施設などいろんな
視点で解決したい。

近田こづえ氏



①福岡県出身、平成
13年から熊川に住
む、熊川女性の会
で活動中

②施設等が揃っていないことに不
便を感じたが、実現したときの
達成感がよい。

③整体など健康施設が増えたらう
れしい。
④若い人が入って子どもが増える
ことに期待。

新野佑一氏



①横浜市出身、気山在
住、彫刻家、平成23
年に作業場として
空き家を購入

②静かでひっそり仕事ができる
思ったが意外に観光客が多い。
③職人が増えてほしい。
④魅力があれば入って来ると思う。

吉井靖博氏



①熊川出身、敦賀市
内の高校教諭、自
衛消防団団長
②熊川区防災部長で

区内の除雪に苦慮した。

③人が集まりやすいシステムを作
り、就職などで外へ出て行かな
い魅力づくりが出来ないか。

④熊川の情報発信の手伝いができ
ればいい。

宮本哲男氏



①熊川出身、空き家
対策部長、前熊川
区長、平成24年時
代村実行委員長

②長年単身赴任、昨年対応して空
き家関係の資料が少なかつた。
③所有者に空き家を提供していた
だけのような積極的にアプローチ
していきたい。

④空き家提供の説明ができるよう
日々の活動から情報発信を頑張
りたい。

豊田氏からは、空き家再生に人
を巻き込むコツとして、「私は、も
つたないという気持ちで活動を
始めた。空き家をイベント的に貸
してもらうことで第一歩を進める
といい。多彩な方が多く、皆が関
わることで再生の輪が広がってい
く」と話されました。

最後に高村先生は、「空き家再
生の新しい試みが出来、熊川がい
いまちになっていくことを願って
います」とまとめられました。

熊川 いっぷく 時代村

と き：平成24年

10月7日

ところ：**鯖街道 熊川宿**

(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川区・熊川いっぷく時代村実行委員会

共催：若狭町

協賛：熊川歴史光鑑会・わかさ東商工会熊川支部

協力：わかさ東商工会・熊川若狭三方五湖観光協会

熊川公民館・熊川小学校

後援：NHK福井放送局・(株)福井新聞社・

FBC福井放送・福井テレビ(株)・

FM福井・チャンネルO・MMネット

司会：曾根啓家 福報



開村宣言と打上げ花火の会場で時代村が開幕！子ども囃子を載せて山車の遊行が行われました。



街道を人力車が走り、ちんどん屋や虚無僧が練り歩きます。歴史的な熊川宿の町並みによく似合います。



ブリキの 金魚レース

メインイベントのひとつ「和装お披露目ショー」が開かれ、かわいい着物の子どもたちがステージに輝きました。

「ブリキの金魚レース」は、午前と午後の2レース行われ、工夫を凝らしたキレイなスタートで一層盛り上がりました。



熊小と三方中野分校の児童生徒さんが、元気いっぱい干物やタコ飯を販売されました。

新企画の「名所めぐりスタンプラリー」に多くの親子が挑戦していました。熊の行商人や辻斬りを探し出すのに苦労したようです。



江戸船艇工や和紙絵描きも人気。いっぷく館では、長持綱や菟瀧の販売、餅つきが行われ、バザーや物産市のテントも終日賑わっていました。

来場者アンケートによる
人気イベントランキングTOP3
第1位：ブリキの金魚レース
第2位：名所めぐり **クイズ付** スタンプラリー
第3位：自然や町並み



多彩な年代の、ご家族連れが、県内外から、多数ご来場くださいました。

熊川宿にある学校 熊川小学校

熊川小学校校長 檜 鼻 幹 雄

「私が卒業した学校は、熊川小学校です。」と将来誇りをもって語れる子どもたちを育てましょう。」というのが、熊川小学校職員一同の新年の抱負です。子どもたちの誇りとは、学校で培われる自信や気概にほかなりませんし、子どもたちが学校で経験した全てのことから生まれます。そして、それは、保護者、地域の方々、学校の職員とが一緒になってこそ、つくってけるものだと思います。

今年の熊川小学校の全校児童数は19名です。大規模な学校であろうと小規模な学校であろうと、そこで培われる子

どもたちの気概や自信は決して変わるものではありません。熊川小学校に赴任して一年が過ぎようとしています。地域や保護者の方々に支えられ、様々な体験を積み重ねながら成長している子どもたちと共に、地域と学校の在り方について勉強した一年でもありました。

インターネットで「熊川宿」を検索しますと、瞬時に約30万件がヒットします。その熊川宿にある熊川小学校の子どもたちは、今年度一年だけでも、熊川いっぶぐ時代村、



ホテル観賞の夕べ等の地域行事の中で様々な人と触れ合いながら体験的な学習を積み重ねてきました。総合的な学習の時間では、地域の方々の協力を得て「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」をテーマに学習してきました。沿道から、観光客、地域や保護者の方々の声援を受けながら熊川宿を駆け抜けた校内

マラソン大会は、普段の学校生活以上に生き生きとした元気な子どもたちの姿を見ることができました。地域と共にある学校の象徴と言える行事となりました。

ふくいまちかどコンサート

(主催 福井県 共催 若狭町・熊川宿おもてなしの会)

11月10日、トーンチャイム演奏グループ「香音」の3名による演奏会が旧逸見勘兵衛家で開かれました。やわらかく響く美しい音色に、訪れた多くの聴衆が聴き入っていました。



熊川宿が中部建築賞受賞

第44回中部建築賞一般部門特別賞に「熊川宿における伝統的民家の復元的修理」が選ばれました。

対象は2005～2012年に修理された17棟で、その事例をBefore&Afterの写真で勘兵衛ギャラリーに展示しています。

熊川小学校の学校教育目標は「自分の生き方を考え、様々な人と関わり、社会に貢献しながら生きる子どもの育成」です。どんな形であれ、将来、地域のために貢献できる子どもに育ってほしいと願っています。学校もまた、地域に支えられながら地域のために貢献することを目標に、次年度の計画をたてているところです。

8/13
15

街かど陶の灯り展 H24

(熊川宿おもてなしの会と共催)



福井ふるさと百景景観づくりの一環で昨年に続いて開催され、陶器の作品にろうそくやLEDを点し街並みに並べました。作品は、地元住民やどろんこ会メンバーの力作が多数揃いました。一日目は雨で中止となりましたが、二日目、三日目は観光客や住民がそぞろ歩いていました。

8/15

納涼盆踊り (熊川宿伝統芸能保存会)

(熊川宿・自主学級ほか)



恒例の盆踊りが開かれ、樽を囲んで流行踊りやつせん踊り、熊川音頭が踊られました。辺りでは焼そばやかき氷のバザー、ゲームコーナーが設けられ、多くの家族連れで賑わいました。また、陶の灯り展が最終日を迎え、幻想的な町並みを演出していました。

8/31

大徳寺と一乗寺研修

(熊川宿伝統芸能保存会)



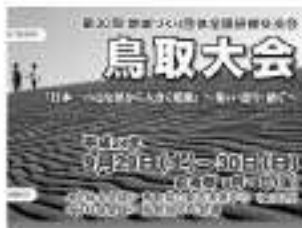
大徳寺では広い境内と、国宝の唐門など重厚な建造物や僧侶の暮らしぶりを研修しました。一乗寺の八大神社では毎年8月31日の夜、八朔祭が行われており、つせん踊りが奉納されます。今年も熊川宿からもつせん踊りに参加や見学をさせていただきました。



9/1 熊川宿自主防災デー

(熊川区自主防災会)

近隣火災通報システムを使った初動訓練と情報伝達訓練が行われました。
その後熊川児童館に集合し、各組別に安否を確認、負傷者を救護する訓練を行いました。
また近隣火災通報システムの一年間の運用状況の説明がありました。



9/29 30 地域づくり全国大会(鳥取県)

第30回地域づくり全国団体全国研修交流会鳥取大会に熊川宿から代表者が参加しました。
倉古市内で全体会が開かれ、来年度は福井県で開催される旨の紹介がありました。その後、三朝町での分科会に参加し、温泉街通りの視察や郷土芸能を鑑賞し交流を深めました。



10/26 呑吐ダム・丹波篠山研修

(熊川区ダム対策特別委員会と共催)

加古川水系山田川の呑吐ダムを研修し、幾つものダムの管理と北神戸市街地の水を眺る重要拠点であることを学びました。
続いて、日本最古の茅葺きの「木千年家」を見学しました。
昼食を挟んで、丹波篠山城の大書院内部を見学しました。重伝建の町並みはゆつくり見学できませんでしたが、天候に恵まれ楽しい研修旅行でした。



11/7 8 文化庁梅津調査官を迎えて

(小浜西組協議会主催)

文化庁調査官の梅津章子先生を小浜市のふれあいセンターにお迎えして、小浜西組協議会の方々と懇親会が開かれました。
講演で梅津先生から、伝建の最近の動向や取り組みをお聞きしました。
翌日午後には、熊川宿の修理物件のご指導をいただきました。



11/18 第4回 伝統文化のつどい

(於パレオ若狭)

御陣乗太鼓と町内民俗芸能の共演が行われ、町内から開見神社の豊栄の舞、若狭能倉座の一人翁、熊川のでっせん踊り、三宅の六斎念仏が披露されました。てっせん踊りでは、伝統芸能保存会に熊川女性の会メンバーに加わっていただき、大勢で華やかな演舞ができました。



12/28 年末夜回り警戒

(若狭消防署上中分署 熊川区・自主防災会ほか)

上中消防団の年末特別警戒出発式に合わせ、年末夜回り警戒が行われました。
雨の中、区民らが上ノ町と下ノ町の端から拍子木を鳴らしながら火の用心を呼びかけ児童館に集結。訓示をお聞きし、平穏な新年を迎えられるよう防火の誓いを新たにしました。

お知らせ

熊川宿まちづくり委員会が地域再生大賞の優秀賞を受賞

地域活性化に取り組む団体を支援する地域再生大賞は、全国の地方新聞社と共同通信社が創設し、今年度が第3回。全国の都道府県から原則1団体ずつ推薦され、福井県内からノミネートされた若狭熊川宿まちづくり特別委員会が優秀賞に選ばれました。
2月14日に、東京都内で表彰式が行われます。

あとがき

熊川宿では今年度、空き家対策部会を立ち上げ、立命館大学政策科学部の高村先生はじめゼミの学生さんや、(社)近畿建設協会の協力・支援をいただき、若狭町行政と連携しながら「空き家を活かした移住推進事業」に取り組んできました。
空き家問題は今や全国的傾向なのか、TV等でも活用事例を目にするようになりました。空き家対策は難しい問題ですが、先進地研修やワークショップ、フォーラムなどに参加させていただくうちに、自分に出ることは何かなど、少し前向きに考えられるようになった気がします。
熊川は、田舎にしては割合都会的で、堅苦しいしきたりや風習も少なく、住みやすい所だと思います。住民はみんな優しく、人情豊かです。それは住民の大多数が関わる熊川いっぶく時代村のおもてなしの心にも表れていると思います。
今後、熊川宿に住まわれる方が増え、まちも人ももう少し賑やかになって、熊川宿での暮らしがより一層豊かなものになるよう願っています。編集委員